

2015 年度生活クラブ生協甲状腺検査活動報告書

2016 年 7 月
生活クラブ連合会

1. 検査活動の経緯

1) 実施経緯

- ・ 2012年8月にふくしま単協から、「福島の子どもと知る権利を守るための活動について」、「福島の子どもと知る権利を守るための活動計画」の提案があり、生活クラブ連合会として各地の会員単協と協力し、福島と他地域の比較のために甲状腺検査の活動に取り組みました。
- ・ 連合会としては、甲状腺検診について、支援要請に応えるにとどまらず、会員単協と参加者それぞれの当事者としての動機を加え、目的を4つにしました。
 - 福島と他地域の比較のために（支援要請に応える）
 - 全国各地の実態を知るために（会員単協動機）
 - 子どもの早期検診として（参加者動機）
 - 脱原発活動につなげる（共通動機）
- ・ 各会員単協は、2012年の秋から甲状腺検査の学習会を開催すると同時に地域の医療機関への協力の依頼をすすめました。
- ・ 検査活動は、2012年度(2012年12月～2013年4月)に612件、2013年度(2013年12月～2014年4月)に702件、2014年度(2014年12月～2015年4月)に736件の参加がありました。
- ・ 検査結果については、松崎道幸医師監修のもとに年度毎に活動報告をまとめ、連合会WEB上にて公開しています。また、毎年7月に各会員生協から参加を募り、報告会を開催しています。

2) これまでの活動の総括(2012-2014年度)

- ・ 参加者の継続的な協力により、継続変化に関するデータを明らかにすることができています。結節および嚢胞について、翌年に消失、あるいは翌年に発生する事例が見られます。この変化は、前年度の見落としやサイズ計測上のゆらぎなど検査上の人為的な原因なのか、自然経過によるものなのか、注視が必要です。また、甲状腺の所見は、医師や技師の経験や検査機器など、さまざまな要素に影響されることがわかってきました。
- ・ 福島県の検査数は県内全域で先行検査(～2015.6.30 現在)300,476 件、本格検査(～2016.3.31 現在)256,670 件にのびります。サンプル数の差がさらに大きくなっていることも含め、単年度での単純な比較は難しい状況です。しかし、明らかになった継続データは、子どもの甲状腺の自然経過を示す基礎資料として役立つ可能性があります。今後も双方の変化を注意深く見ていく必要があります。
- ・ 放射能による甲状腺への健康被害については、医学的にもわかっていないことが多いのが現状です。福島での県民健康調査では、専門家の当初の予想(「100万人に一人」)をはるかに上回るペースで甲状腺がんが見つかっています。刻々と変化していく状況に対し、市民の側からの検証として2016年度までは検査活動を継続していく方針です。
- ・ 市民による健康検査活動においては、医療機関との連携が大きな課題です。それぞれの地域で培ってきた医療機関との継続的な連携をつうじて理解を得ることが、放射能による被ばくの問題に今後も取り組んでいくための貴重な基盤になると考えます。
- ・ 2017年度以降の検査活動については、2015年度の議論をふまえた上で方針化します。

3)2015年度検査活動の実施概要

①目的

- ・ 2012年度から毎年行なっている甲状腺検査の結果を積み重ね、福島県による甲状腺検査との比較をつうじて、放射能による子どもたちの甲状腺への影響を明らかにします。
- ・ これまで検査活動に参加した方に対する経過の見守りと検診を継続します。
- ・ 地域の医療機関・医師の協力を得て、市民の立場から自ら実証をすることで、政府や福島県による甲状腺健診を監視し、行政による情報管理への異議申し立てとし、脱原発の活動につなげます。

②検査対象

- ・ 小学生・中学生・高校生をおもな対象としました。継続を重視していますが、新たに年少のお子さんの参加もあり、年齢に広がりがありました(0歳～22歳)。平均年齢は2012年度10.35歳、2013年度10.21歳、2014年度10.04歳、2015年度10.28歳でした。

③実施時期

- ・ 2015年度の冬休み～春休みに実施しました。

④参加規模

- ・ 全体での目標人数を869名とし、継続受診者を中心に呼びかけをすすめました。結果として、21単協799名が参加し、うち新規受診者310名(38.8%)、2もしくは3回継続者は328名(41.1%)、4回継続者は161名(20.2%)となりました。
- ・ 性別では、全体では男子391名(48.9%)、女子408名(51.1%)でほぼ同じでした。
- ・ 各単協の活動で多くの医療機関に協力をいただきました。協力医療機関は62カ所、検査に携わっていた医師および技師は64名でした。

⑤検診項目

- ・ 甲状腺エコー(超音波)検査(可能な場合は問診)とし、血液・尿検査は実施しませんでした。

⑥費用

- ・ 「福島の子どもと「知る権利」を守るための活動」として、検査費用は組合員の復興支援カンパでまかないました。

⑦ふくしま単協の検査

- ・ 福島県内の医師とのネットワークを活用して、ふくしま単協の子どもたちの甲状腺検査も実施することができました。101名の結果が報告されています。

2. 調査結果

1)2015年度全体

- ・ 2015年度全体の有効件数は799件です。
- ・ 比較対照として、福島の数については、第23回「県民健康調査」検討委員会(平成28年6月6日開催)資料のデータ(2016年3月31日現在)を使用しています。

①嚢胞の所見率

- ・ 生活クラブの嚢胞ありは、全体の47.8%(352件)でした。

- ・ 福島との比較では、福島では嚢胞なしが 52.1% (先行検査)、42.2% (本格検査)、生活クラブ 43.7% で、福島本格検査と近い結果となっています。

嚢胞の有無・ 大きさ	生活クラブ 2015		福島先行検査 (2016.3.31 現在)		福島本格検査 (2016.3.31 現在)	
	全体	%	全体	%	全体	%
なし	349	43.68%	156,565	52.12%	104,209	42.19%
～3.0	293	36.67%	88,072	29.30%	95,729	35.96%
3.1～5.0	123	15.39%	48,452	16.12%	50,222	19.19%
5.1～10.0	32	4.01%	7,238	2.41%	6,376	2.62%
10.1～15.0	2	0.25%	123	0.04%	113	0.05%
15.1～20.0	0	0.00%	14	0.00%	15	0.00%
20.1～25.0	0	0.00%	8	0.00%	4	0.00%
25.1～	0	0.00%	4	0.00%	2	0.00%

②結節の所見率

- ・ 生活クラブの結節ありは、全体の 2.3% (19 件) でした。
- ・ 福島との比較では、福島では結節なしが 98.7% (先行検査)、98.6% (本格検査)、生活クラブ 97.6% で、生活クラブの所見率が 1% ほど高くなっています。

結節の有無・ 大きさ	生活クラブ 2015		福島先行検査 (2016.3.31 現在)		福島本格検査 (2016.3.31 現在)	
	全体	%	全体	%	全体	%
なし	780	97.62%	296,488	98.67%	253,145	98.63%
～3.0	2	0.25%	421	0.14%	257	0.10%
3.1～5.0	7	0.88%	1,292	0.43%	1,215	0.47%
5.1～10.0	9	1.13%	1,608	0.54%	1,454	0.57%
10.1～15.0	0	0.00%	417	0.14%	382	0.15%
15.1～20.0	1	0.13%	132	0.04%	125	0.05%
20.1～25.0	0	0.00%	59	0.02%	49	0.02%
25.1～		0.00%	59	0.02%	43	0.02%

2) 震災時に福島にいた子ども(ふくしま単協含む)

- ・ 検査者のうち、震災時に福島にいた子ども (3/15～17 日の所在地の記述から分類) の有効件数は 14 件です。これにふくしま単協の子どもの 101 件 (県外避難有無を問わず) を含め、115 件としています。

①嚢胞の所見率

- ・ 嚢胞の所見率は 69.6% (80 件) と全体の所見率よりも 13.3 ポイント高めになっています。

②結節の所見率

- ・ 結節の所見率は 2.6% (3 件) でした。全体の所見率よりも 0.3 ポイント高めになっています。

3) 2014 年度→2015 年度の検査継続者

- ・ 2014 年度から 2015 年度の検査継続者の有効件数は 431 件です。
- ・ 性別分布は男子 45.7% (197 件)、女子 54.3% (234 件) で、女子の割合がやや高くなっています。
- ・ 2014 年度の検査では嚢胞保有率 51.7% (223 件)、結節保有率 3.5% (15 件) でしたが、2015 年度検査では嚢胞保有率 57.1% (246 件)、結節保有率 1.9% (8 件) と嚢胞保有率が増加、結節保有率が減少しています。

①嚢胞の所見の変化

- ・ 2014 年度に嚢胞の所見がなかった 208 件のうち、2015 年度に新たに発生したのは 40 件です。発生した嚢胞のサイズはすべて 7mm 以下でした。
- ・ 2014 年に嚢胞の所見があった 223 件のうち、2015 年度の所見でサイズが拡大したのは 111 件、縮小は 75 件、変化なし 20 件、消滅は 17 件でした。消滅した嚢胞のサイズはすべて 5mm 以下でした。

②結節の所見の変化

- ・ 2014 年度に結節の所見がなかった 416 件のうち、2015 年度に新たに発生したのは 4 件です。発生した結節のサイズは 3.1mm～6mm の範囲でした。
- ・ 2014 年度に結節の所見があった 15 件のうち、2015 年度の所見でサイズが拡大したのは 1 件、縮小は 2 件、変化なし 1 件、消滅は 11 件でした。消滅した結節のサイズは 3～10mm の範囲でした。

4) 2012 年度→2015 年度の検査継続者

- ・ 2012 年度と 2015 年度の検査継続者の有効件数は 210 件です。(このうち、2013、2014 年度を含め 4 回受診者は 161 件)
- ・ 性別分布は男子 49.5% (104 件)、女子 50.5% (106 件) で、女子の割合がわずかに高くなっています。
- ・ 2012 年度検査時の嚢胞保有率は 45.2% (95 件)、結節保有率は 5.1% (11 件) でしたが、2015 年度の検査では嚢胞保有率 59.5% (125 件)、結節保有率 1.9% (4 件) と嚢胞保有率が増加、結節保有率が減少しています。

①嚢胞の所見の変化

- ・ 2012 年度に嚢胞の所見がなかった 115 件のうち、2015 年度に新たに発生したのは 41 件です。発生した嚢胞のサイズはすべて 11mm 以下でした。
- ・ 2012 年に嚢胞の所見があった 95 件のうち、2015 年度の所見でサイズが拡大したのは 41 件、縮小は 39 件、変化なし 4 件、消滅は 11 件でした。消滅した嚢胞のサイズはすべて 5mm 以下でした。

②結節の所見の変化

- ・ 2012 年度に結節の所見がなかった 199 件のうち、2015 年度に新たに発生したのは 3 件です。発生した結節のサイズは 3.1～10mm の範囲でした。
- ・ 2012 年度に結節の所見があった 11 件のうち、2015 年度の所見でサイズが縮小したのが 1 件、消滅が 10

件でした。消滅した結節のサイズは 3.2～21.2mm の範囲でした。

4)まとめ

- ・ 福島県県民健康調査の結果との比較では、2015 年度についても生活クラブの方が結節の所見率が高くなっています。一方、嚢胞の所見率は福島(本格検査)と生活クラブでほぼ同じ所見率となりました。2012 年度からの検査活動の中で、甲状腺の所見は、医師や技師の経験や検査機器など、さまざまな要素に影響されることがわかってきています。さらに福島県の検査数との差が大きいことも含め、単純な比較は難しい状況です。
- ・ 参加者の継続的な協力を得られたことから、継続変化に関するデータを明らかにすることができました。その中で 2014 年度と同様に結節、嚢胞の有無、サイズの変化が多くみられました。
- ・ 嚢胞については、約9割は存続していますが、うち約9割は拡大もしくは縮小しています。嚢胞がなかった場合も2割程度はあらたに発生しています。
- ・ 結節については、2012 年度見つけた結節の約9割が消滅、2014 年度に見つけた結節は約7割が消滅していました。結節がなかった場合も1%の率であらたに発生しています。
- ・ 変化の傾向として、結節は縮小・消滅の割合が多く、嚢胞は発生・拡大の割合が多いことがわかりました。また、結節の変化においては、20 mm以上の結節が消滅するなど、嚢胞よりも大きなサイズの変化が見られました。
- ・ これらの変化は、見落としやサイズ計測上のゆらぎなど検査上の人為的な原因なのか、自然経過によるものなのか断定はできませんが、毎年同様の傾向が見られています。このことから、子どもの甲状腺検査の結果は短期間のうちに変化する可能性があるということがわかります。毎年の検査で推移を確認していく必要があります。

※協力医療機関(順不同)

伊藤病院、五十子クリニック、きくち内科クリニック、医療生協かながわ生活協同組合 戸塚病院、横浜旭中央総合病院、高井内科クリニック、川崎協同病院、平塚診療所、(法)三田医院、TMクリニック、青空ひだまり内科クリニック、いちばら協立診療所、手賀の杜クリニック、千葉健生病院附属まくはり診療所、大村病院、東葛病院健診センター、二和ふれあいクリニック、甲田クリニック、市川内科クリニック、いちょう坂クリニック、友部セントラルクリニック、たにむらクリニック、総合病院 南生協病院、宇都宮セントラルクリニック、あおもり協立病院、高崎中央病院、桑野協立病院^{注)}、小川医院^{注)}、光風台診療所、長崎クリニック、馬場内科クリニック、豊中渡辺病院、香美音クリニック、嵯峨嵐山 田中クリニック、島津医院、くらはら耳鼻咽喉科、つるはら耳鼻科、阪南中央病院、ろっこう医療生協

注)問い合わせはふくしま単協事務局宛にお願いします。

※添付資料

- ・ 2015 年度甲状腺検査結果集計データ・・・資料 1
- ・ 松崎道幸氏(道北勤医協 旭川北医院院長 医学博士)「生活クラブ生協甲状腺検査のまとめと甲状腺検診の必要性について」・・・資料 2

以上